

東海コープ事業連合

サステナビリティ レポート

TOKAI CO-OP Sustainability Report

2020



東海コープ事業連合の活動報告 発行にあたって

2019年度は、第4次中期計画スタートの年になりました。日本生協連との共同事業によるCO・OP商品のリニューアル、商品案内やOCR注文用紙の改善、e-フレンズの仕組み改善、テレビCM、元気シニア向けや共働き世代向けの別冊媒体の発行、店舗生鮮商品の強化とロス改善、業務改善やシステム化の推進、データ活用に向けた取り組みなど、さまざまな取り組みを進めてきました。

商品事業では、子育て、共働き世帯を重点に、品揃えを改善しました。会員生協と一緒に商品開発やモニター活動、県別商品強化に取り組みました。

宅配事業では、商品案内の改善やいつでも注文カタログの強化、別冊媒体や長期休暇対策、赤ちゃんの誕生を地域と一緒に応援するハピハピボックスの取り組みを会員生協と一緒に進めてきました。

店舗事業は、生鮮惣菜やコープ商品の強化を進めながら、生産性向上のために仕組みや作業改善のサポートを進めました。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響も大きく、情勢やくらしが刻々と変化しています。商品調達やBCPの見直しなどの対応強化、組合員のくらしを守る、命を守る取り組みに会員生協とともに貢献することを重要な課題としながら、組合員一人ひとりの要望把握と実現、地域の皆さんに生協の取り組みをお知らせすること、また一層の社会貢献を推進していきます。

組合員の声やデータ、AIを活用しながら商品力や企画強化を進めます。わかりやすく商品政策を見直し、SDGsの取り組みや環境配慮など、コープ商品の価値が伝わる発信力を強めます。

宅配・共同購入のリノベーションを課題に位置付け、3生協と一緒に統一した宅配のブランドをつくり、地域への認知度を高めます。見やすく利用しやすい仕組みづくり、組合員の声で紹介する紙面づくりを強め、SNSなどを活用してよさを広げます。

また、店舗事業や物流事業では、品質の向上と合わせて、生産性向上のための作業改善や仕組みの改善の実施を進めます。

人口減少と高齢化がますます進む中で、より組合員の声や情勢を反映して、取り組みの革新や広報の充実を進め、皆さんと一緒に、よりよい生協づくりに向けて取り組んでいきます。

2020年6月



専務理事
茂木 稷

東海コープ事業連合の理念

未来につながる安心生活
東海の豊かな自然と、
人と人のつながりを大切にします



東海コープ事業連合 第4次中期計画 | 2019-2021 |

基調

- 1 事業連合に関する組合員の要望を着実に実現する取り組みをすすめます。
- 2 会員生協の要望に積極的に応える取り組みをご一緒にすすめ、共同購入・宅配の年1%の事業伸長をつくります。
- 3 受託した業務の高度化に取り組むとともに、中期的な事業連帯に対応できるよう、政策立案力や執行力を強めます。
- 4 事業連合として、人づくり担い手づくりについて、教育を重視して取り組みます。

第4次中期計画では、第3次中期計画で実現してきた取り組みを深化させながら、多様化する組合員のくらしの変化や要望を着実につかみ、応え、くらしに貢献していきます。

SDGsは生協・協同組合の理念と重なり合っています

生協は、助けあいの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会であることをめざしてきました。誰も取り残さないというSDGsが求めるものは、生協の理念と重なり合っています。世界を変えるための壮大な目標であるSDGs、達成には一人ひとりの日々の生活や意識を変えることが不可欠です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs(持続可能な開発目標)とは

2015年9月ニューヨーク国連本部において、150を超える国連加盟国首脳が参加のもと、国連持続可能な開発サミットで採択されたものです。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。本報告書では、SDGsの目標と関わりのある生協の事業・活動の事例にSDGsのアイコンを掲載しています。

<p>1 貧困をなくそう</p> <p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>

<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>各国内及び各国間の不平等を是正する</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p> <p>持続可能な生産消費形態を確保する</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p>
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>	

INDEX

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
コープのエシカルな取り組み	多様化する組合員のくらしに応える企画づくり	商品の改善・開発	くらしにお役立ちできる店舗へ	物流の改善・生産性向上の取り組み	より便利に商品を利用できる注文の仕組みの改善	安全と安心の取り組み	会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み	職員の学習と働きやすい環境づくり	さまざまなくらしに合わせたサービスの提案	安全運転とくらしの保障をとおして地域や職場に安全と安心・笑顔をお届け
03	05	07	08	09	10	11	13	13	14	14

1 コープのエシカルな取り組み



エシカルとは「倫理的」という意味です。
生協では地球や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」（エシカル消費）と表現し、積極的に応援しています。

CO-OP洗剤環境寄付キャンペーン

NPO法人 ボルネオ保全トラストジャパンを通じて、「インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な生産を支援する」プロジェクトに寄付されます。

●取り組み期間：2018年5月4週～2019年5月3週 ●寄付金額：338,730円(共同購入)

コープのエシカル = Ethical =

5月4週

対象商品1品につき0.5円を環境団体に寄付

2018年度(2018年5月21日～2019年2月20日)は全額寄付で合計2,731,056円を寄付しました。
2019年度(2019年5月21日～2020年2月20日)は全額寄付で合計266,335円を寄付しました。

飢餓に苦しむ子どもたちに給食を。学校に行けば食べられる、学べる。

レッドカップキャンペーン

「コープヌードルシリーズ」を中心に、商品案内10月2週(41号)、11月1週(45号)の特集紙面で紹介しました。1品購入につき1円を国連WFPに寄付しています。

●取り組み期間：2019年10月1日～11月10日

CO-OP × レッドカップ キャンペーン

1品購入につき1円を国連WFPに寄付

CO-OPコアノン スマイルスクールプロジェクト

コアノンロール1パック購入につき1円、ユニセフを通じてアンゴラ共和国に寄付される活動です。寄付金は、アンゴラの子どものための教育環境を向上させるために使われています。2019年12月17日に、第9期募金贈呈式が開催されました。

●取り組み期間：2018年11月1日～2019年10月31日(第9期)
●寄付金額：754,464円(共同購入)

スマイルスクールプロジェクト

アンゴラ共和国の子どものための教育環境を向上させるために使われています。

ディルマ スクールバッグ提供支援プロジェクト

エシカルな取り組みとして、組合員と一緒に支える、「スクールバッグ提供支援プロジェクト」を2017年8月から始めています。ディルマ紅茶製品を組合員に1点利用いただくごとに、1円を支援金として拠出。2020年1月に小学校に入学するスリランカの子ども達へ、スクールバッグを84個届けることができました。(前回は79個) 2019年12月に、スクールバッグの贈呈式を含め、Dilmah(ディルマ)紅茶の本国(スリランカ)の視察訪問を行いました。3月4週(13号)の特集紙面で2018年度の取り組みを紹介しました。



ディルマ スクールバッグ提供支援プロジェクト

1点利用につき1円を支援金として拠出

Best Price! 498円 (税込537円)

資源保護と環境に配慮した商品活動

コープの森づくり

商品利用を通して、森・川・海の環境を守り育てる取り組みを、北海道の野付、沖縄の恩納村、インドネシアのタラカン島で取引先の皆さんと協力して進めています。組合員や職員は、産地で植樹の体験や、東海地域での交流会などの取り組みを通して、食と環境の関わりや環境活動の大切さを学びました。「コープの森づくりマーク」がついた商品の利用1品につき1円を、森づくりをするための苗木代や管理費としています。2019年度は合計約180万円を産地に送ることができました。



野付：植樹 海人の料理交流会：コープあいち 豊川市 塔ラカン島：植樹

うなぎ資源対策協力金

2019年10月21日、一色うなぎ漁協にて「うなぎ資源対策協力金」贈呈式を、東海3生協、コープこうべ、日本生協連、一色漁協関係者20名程で実施しました。東海コープより約38万円の協力金を贈呈しました(うなぎ対象商品1点購入で3円を寄付金として拠出)。資金は試験研究事業に充てられます。うなぎ供養祭を行った後、うなぎ約4千匹を放流しました。



協力金贈呈 うなぎの放流

エシカル特集ページの取り組み

2019年度より水産畜産部門ページにてエシカル特集ページを毎週1ページ枠でスタート。水産・畜産のはぐみ自慢認証商品や、うなぎ基金、森づくりの取り組み等、生協商品の利用を通じてエシカル消費を進めました。

エシカル特集ページ

フェアトレードバナナ(有機栽培)

バナナ1袋あたり、約4円を産地に支援することで生産者の暮らしに役立てられます。支援金は、地域の子どもの生活支援やインフラ整備などに活用されています。

フェアトレードバナナ(有機栽培)

バナナ1袋につき約4円の産地生産者支援を行っています

045 フェアトレードバナナ(有機栽培) 約500g(3~6本) 298円 (税込321円)

めぐる玉ねぎ(環)「環境配慮・循環型農業」

森の間伐材を木炭にし、土壌改良材に使用することでカーボンオフセットに取り組み、CO2の排出量を削減した玉ねぎ。産地での取り組みに加えて、東海コープでも供給1点あたり1円を積み立て、森林保全活動の支援に役立てています。

新登場! ぜひお試しください

CO2をシャキッと減らしました

039 玉ねぎ(環) 約500g(2~4玉) 158円 (税込170円)

2 多様化する組合員のくらしに応える企画づくり

要望に応える品揃え・企画づくりと注文のしやすさの両立をめざしました。

組合員の声に応えた商品案内改善

2019年3月4週より、組合員の声に応えた改善として、飲料企画の規格・注文番号を見やすく改善しました。

改善前		改善後	
1本 3320	1本 3391	1パック(125ml)あたり46kcal	1パック(125ml)あたり0.03g
12本 3321	12本 3392	1パック(125ml)あたり47kcal	1パック(125ml)あたり0.03g
68円 (税込73円)	68円 (税込73円)		
760円 (税込820円)	760円 (税込820円)		
ケース 1箱 64	ケース 1箱 64		
ミックスキャロット(国産にんじん使用)125ml 人参汁55%、果汁45%使用。砂糖不使用。 賞味 180日 日本生協連(ゴールドパック)/国内製造	ミックスキャロット(国産にんじん使用)125ml 人参汁60%、果汁40%使用。砂糖不使用。 賞味 180日 日本生協連(ゴールドパック)/国内製造		

2019年3月4週より、「生協の惣菜屋さん」から「コープのミールキット」にタイトルを変更し、冷蔵・冷凍のキット商材を1ページでまとめ、注文しやすくしました。

2019年10月1週より、冷凍・冷蔵で分かれていて注文しにくいページを整理しました。農産野菜ページの最後に、冷凍野菜ページを移動しました。中華惣菜(冷凍餃子、日配餃子)を見開ページにしました。めん類(冷凍めん・日配めん)を見開ページにしました。温度帯の違う、お菓子のページを1ページにまとめました。



子育て・共働き世帯

2019年7月3週より、【子育て・共働き世帯】に向けて、下記のキャッチコピーで紙面展開しました。

料理・献立のアイデア提案として、2019年11月1週より、【子育て・共働き世帯】紙面を1ページ展開しました。

- 時短のヒント
- お手軽アイデアレシピ
- 忙しい毎日を応援



いつでも注文 きらきらステップ



別冊媒体

2019年10月4週より、別冊媒体【元気シニア】

2020年1月3週より、別冊媒体【共働き世帯向け】



医薬品の導入

2019年4月1週より、医薬品(スクロール)の別冊媒体を毎月第1週に発行しました。



3 商品の改善・開発

組合員の改善要望の「声」に応えました。

声をカタチに改善・開発事例集の発行

会員生協組合員の商品づくりや商品改善、商品確かめ活動の成果と、商品を中心としたコミュニケーション事例などを掲載しました。組合員・役職員・取引先などへの情報発信と共有化をめざし、10月に発行しました。

商品開発検討 コープぎふ 岐阜西支所

ほうじ茶ミニソフト

お茶の健康効果とフタバ食品とのコラボ商品の開発検討を組合員と一緒にすすめ、地元のほうじ茶を使ったミニソフトアイスの食味やパッケージデザインなどのモニター活動をすすめてきました。モニター参加者からは「さっぱりして、ほうじ茶の香りが口の中に広がる感じがする。」「ほうじ茶感があると思う、香りを感ずる。」「アイスマイルのコクもあって、より美味しい。」などの声をいただきました。11月2週にデビューします。

会員生協組合員の商品づくりの記事

改善した商品の紹介の記事

11月より販売、キャップを改良し、注ぎ口の隙間を1mm→1.4mmに拡大し、早急を出やすくしました。また、注ぎ口キャップの隙間が穴も大きくし、外れやすくなりました。空気を抜くキャップ全体の取り外しも、しやすくしました。

改善した商品の紹介の記事

日本生協連との共同開発

日本生協連との共同開発を進め、東海コープ11品の商品が日本生協連商品としてデビューしました。モニター活動など、組合員と検討しながら、商品の見直しを進めています。

各会員生協、組合員グループの活動の場へ伺い、現行品、試作品を比較しながら試食し、評価いただくモニターを実施しました。

旧包材

新包材

●CO・OP みそ煮込うどん

●商品検討の様子

コープぎふ 各務原支所

コープあいち 港センター

コープみえ 桑名センター

商品開発	2019年度	商品改善	2019年度	商品モニター	2019年度
日本生協連との共同開発	11	4月発行	—	CO・OP商品共同開発	8
組合員検討	9	10月発行	4	CO・OP商品新規お試	1
		1月発行	—	一般商品新規	21
合計	20	合計	4	合計	30

(リニューアルを含むデビュー商品数) (改善・開発事例集で情報発信した商品数) (2019年度に取り組みを実施した商品数)

ハピハピボックス・CM放送の取り組み

2019年4月から、岐阜、愛知、三重にお住まいの1歳未満のお子さまをお持ちの方を対象に、赤ちゃんの誕生のお祝いと子育てに奮闘するお母さんを応援する取り組みとして、「ハピハピボックス」のお届けがスタートしました。プレゼントは、毎日の育児に役立つ食品や雑貨を専用ボックスにセットして応募者へお届けしています。

テレビCM放送

東海3県では、年間約90,000人の赤ちゃんが誕生しています。「ハピハピボックス」の取り組みを地域に広く知らせるため、2019年4月1日(月)から、中京テレビ「キャッチ!」のエンディングで、テレビCMの放送がスタートしました。CMは、月曜日と木曜日の週2回、生まれたばかりのお子さんご家族をご紹介する「かぞくのめばえ」コーナーで放送され、視聴者から多数のご応募をいただいています。

ハピハピボックス 取り組み状況

2019年4月から2020年3月までの1年間で、29,636名の方に「ハピハピボックス」をお届けし、プレゼントのお届けをきっかけに、新たに8,460名の方にご加入いただくことができました。保健センターや、子育て施設、産院へのリーフレット設置など、地域と連携した活動も広がっています。



●2020年3月20日時点の状況

	お届け数	加入人数
ぎふ	7,246名	1,225名
あいち	18,059名	6,323名
みえ	4,331名	912名
3生協計	29,636名	8,460名

4 暮らしにお役立ちできる店舗へ

会員生協から受託してサポートしています。

商品力・惣菜部門の強化の取り組み

「美味しさ」にこだわり、新規商品開発、主力商品の育成、利益改善を進めました。植物性由来の容器・トレーを積極的に使用し、環境に配慮した取り組みも進めました。

環境に配慮した取り組み

特別対策店でリニューアルを行った上八田店の惣菜売り場では、エコテトラの袋を使用し、ゴミ削減と環境に配慮した商品づくりを進めました。又、惣菜コンサルタントに指導頂いたような重や米飯なども、環境配慮型トレーを使用しました。



主力商品のブラッシュアップ

ローズかつ重:とんかつは、生パン粉を使用したトンカツへ変更しました。カツ重のたれは大人気の玉子焼き調味液を使用しています。



唐揚げ:1次加工を取引先に委託し、安定した味と店舗での作業効率を改善しました。



作業改善・生産性向上

- 店舗での作業改善や業務改善を進め、店舗後方のコストの適正化をめざしました。店舗で働く職員がもっと働きやすい環境(楽に仕事ができる)を整え、同時に、投入人員を削減したり、生産性を高め、収益を向上させることを目標として取り組みました。IEという手法で「作業観察→現場の問題点を見つける→本部が改善策を示す→店舗と本部で検討する→店舗が主体となり実践→検証する」を繰り返します。
- 適正な品揃え(ぎふ・あいちで実践)がはじまった棚割と陳列棚を一致させる取り組みが始まりました。このことを通して、データを活用した棚割、EOB発注の有効活用に道筋が見えました。
- 生鮮部門(農産・畜産)で電子データでやりとりするEDI発注作業の改善が進み、発注精度も向上し、経理処理も楽になりました。

BEFORE

AFTER

キャッシュレス・消費者還元事業 ウィズカ

10月1日より消費税が増税され、それともなって実施されたキャッシュレス・消費者還元事業にコープあいちの電子マネー「ウィズカ」を登録、10月21日より還元をスタートしました。店舗でのウィズカの利用率は9月度までで人数比17%、金額比21%でしたが、還元事業がスタートし3月度では人数比24%(+7%)、金額比29%(+8%)まで伸長しました。クレジットカード、PayPayを合わせコープあいち店舗のキャッシュレス比率は人数比51%、金額比63%となりました。



5 物流の改善・生産性向上の取り組み



会員生協の業務効率改善と並行して、基幹物流の改善を進めています。

物流生産性向上に向けた取り組み

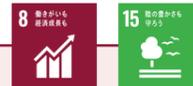
物流センターでは昨年に引き続き、桑名SC・小牧ドライSC・小牧要冷SC・農産SCにて、専務理事のもとで、ワークショップによる問題点の一覧化、優先順位、対策案の検討と改善を実行。「安全に・楽に・早く」とより効率の良い作業をめざし、人手不足に対応するため、生産性向上を継続して追求していくための改善効果が生まれました。



物流センター改善の取り組み(4セットセンター)

拠点	BEFORE	AFTER
桑名SC	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボール箱のサイズがバラバラで、重い箱などの口切り作業(段ボールの4辺を切る作業)が負担。 ・箱から商品を取り出しやすくする手前側のカットが負担。 ・ラックへのケース単位の補充が、重量や高さなど負担がかかるため補充者が必要。 ・集品時に箱から取り出す際、取り出しにくさがあった。 ・空の段ボールをラックの幅に引っ掛けることもあり取り出しにくい。 ・空の段ボールが大きく、破材ラインが詰まりやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーローラー使用で口切り作業が不要になった。 ・フリーローラーの使用でケース単位での補充が無くなり重量、高さへの負荷が減少した。 ・ラック補充前に段ボールが空になり、破材ラインに流さなくてもよくなった。
小牧要冷SC	<p>取引先にも協力をいただきながら、より良い作業に向け相談を重ね進めた。センターへの納品時間、商品マスター不備などの調整を行い入荷検収の作業時間短縮に繋がった。</p>	
小牧ドライSC	<p>補充商品はパレットに積載して限られたスペースのため、混載が発生し商品が探しづらくなっていた。</p>	<p>スペースを広く活用できるようカゴ車を活用し、商品と補充棚の双方にラベルを貼った。パレットは別商品を重ねないルールとし探しやすくなった。</p>
農産SC	<p>予備品は、コンテナの中に何段も重ねて保管されているため必要な商品を探すのに時間がかかっていた。また、クレートを持ち上げて探していたので、転倒のリスクがあった。</p>	<p>コンテナを改良して、予備商品が一目で分かるようになった。また、手前から商品を取り出すことで転倒のリスクも減った。</p>

6 より便利に商品を利用できる 注文の仕組みの改善



インターネットを含め、注文媒体の新しい取り組みを進めています。

e-フレンズ改善の取り組み

e-フレンズからの利用が7.5万人/週を超え、そのうち約70%の方がスマートフォンからのアクセスです。2020年1月から新たな機能を追加し、利用しやすく改善しました。

1 注文方法を横スライドでわかりやすく表示し、サイトイメージを一新しました。

2 スマホから当日の配送状況が確認できる機能を追加しました。

注文方法が増えました!

商品を探しやすくなりました



当日の配送状況をリアルタイムで確認

到着目安がわかるので予定が立てやすいです



3 アプリで組合員証を表示。お店の利用もスマホで便利になりました。

組合員証をアプリ上で表示

店舗でお買い物する際、アプリ上で組合員証を表示できるから便利です。※組合員証表示で特典を受けられる提携先でもご利用いただけます

フードバンク活動

組合員の財産である商品の中には、在庫中に賞味期間が3分の1を切ったり、パッケージが変更されてお届け基準を外れ、処分せざるを得ない商品も少なからずあります。そうした商品を活用し、安心してらせる地域づくりのために、食料支援を必要とする家庭に役立てる取り組みとして、東海コープでは2015年5月より、NPO法人セカンドハーベスト名古屋に提供しています。常温品、冷蔵品、冷凍品を提供し2017年で11万個、36トンとなり、この3年間で約2倍に広がりました。2019年は新たにフードバンクぎふと鈴鹿市社会福祉協議会への提供もはじまりました。



●セカンドハーベスト名古屋への提供

カテゴリー	個数		重量 (単位:kg)	
	2018年	2019年	2018年	2019年
一般食品	46,296	52,611	12,834	15,478
パン	27,787	27,357	9,373	9,228
冷凍食品	19,620	17,696	6,827	9,357
冷蔵食品	41,060	37,689	13,735	13,283
青果	—	—	3,302	14,854
合計	134,763	135,353	46,070	62,200

●フードバンクぎふ 生協商品の引取りと支援配布のまとめ(2019年)

個数	引取り			配布(支援)		
	重量(kg)			件数	個数	重量(kg)
	牛乳	冷蔵食品	合計			
6,187	477.3	1,411.0	1,888.3	930	6,187	1,888.3

7 安全と安心の取り組み

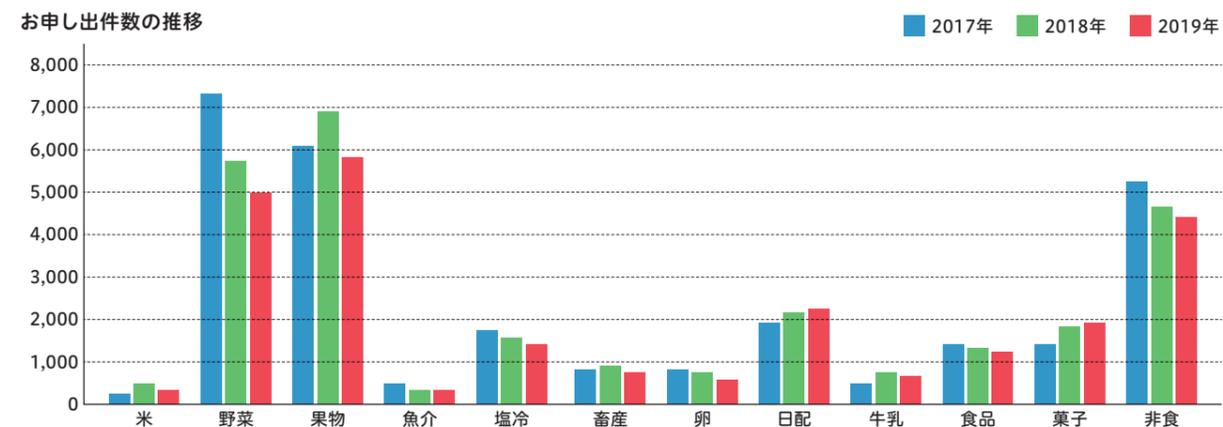
会員生協や商品部と連携し、お申し出対応レベル、管理レベルの向上に取り組んでいます。

2019年度 品質保証の取り組み



お申し出を品質向上に生かして (2019年度お申し出件数 約25,200件)

2019度のお申し出は、共同購入・宅配で24,972件、店舗で221件でした。農産物のお申し出では、野菜が減少しています。特に葉もの野菜の件数が減少しています。農産セットセンターでの入荷点検と温度管理による成果です。



いくつかの商品から「黒い浮遊物」「かびのようなもの」というお申し出が発生しました。これらが商品は違っても同一工場で製造されていることが分かり、原因を同じとする多発のお申し出につながる予測ができ対応につなげました。これは製造工場ごとにお申し出発生状況を確認することができるようになり、同一工場が発生していることが調べられ、迅速な対応ができるようになった好事例です。

お申し出の検証「リスク予兆の早期発見と迅速な対応を進めました」

事例 1

取引先から漬物原料として使用しているアメリカ産セロリが残留農薬基準を超過したため、原料の購入先を変更するという情報がありました。同じアメリカ産のセロリであったため、変更予定の原料を東海コープ商品検査センターで緊急に検査し、配達日までに確認することができました。自前の検査センターで迅速な対応ができた好事例です。

事例 2

企画前の新規検査で菌数の自主基準超過する商品がありました。取引先に情報提供し、対応されたことで、企画時には良好な結果のものをお届けすることができました。検査結果の有効活用ができた好事例です。

取引先への品質管理向上の取り組み

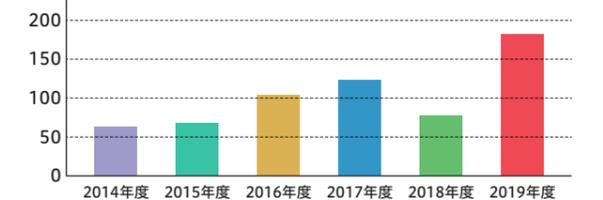
東海コープ事業連合の取引先自主団体である「東海コープ事業連合虹の会」の品質管理研究会を2019年度も開催しました。103社と多くの取引先が参加され、品質向上のための人づくり、HACCP制度化対応の理解を深めました。



食の安全を守るため新しい検査を導入しました

ヒスタミン検査の実施を強化しました。ヒスタミンは、魚介類の取り扱いが悪いと生成されます。ヒスタミンを多く含む魚介類やその加工品を食べると、アレルギーのような症状を起こすことがあります。特に食中毒事例が比較的多く報告されている青背の魚については、新規取り扱い時に検査を実施するようにしています。

ヒスタミン検査件数の推移



安全な商品の実現に向けて

食品衛生法が改正され食品等事業者のHACCP制度化が定められました。店舗は、会員生協の委員とHACCP準備会を立ち上げ、コープあいち大高インター店での実験店の取り組みを進めました。共同購入は、日本生協連の作業部会で宅配事業のHACCPガイドラインを検討中で、その情報も各生協にお伝えしています。

検査業務の全国生協の共同化推進

人材育成の効率化や検査にかかるコストの軽減などをめざし、全国生協の検査部門の連携を進めています。今年度は、微生物検査の主たる検査項目である一般生菌数の検査法統一が進みました。

検査センターの移転、学習・体験機能を会員生協と一緒に検討しました

新たな検査センターでは、組合員の皆さんが「食の安全」「食と健康」について学べる機能を充実させます。これまで続けてきた「おいしくって安全なお話」などの情報も利用しやすい仕組み作りを検討しています。本部と直結する地の利を活かしながら、より多くの組合員やそのご家族を迎えられるような施設をめざします。

商品検査センターは、2020年6月に本部南館に移転。



8 会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み



資源リサイクルの取り組み

組合員にお届けした商品案内や容器を会員生協を通して回収し、再生品の原料として活用しています。

商品案内など(紙類)		再生紙の原料としています。			
商品案内など	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	(単位:kg)
配布量	10,692,990	11,147,528	12,624,488	11,985,990	
回収量	8,642,084	8,548,071	9,419,762	9,220,470	
回収率	80.8%	76.7%	74.6%	76.9%	

卵パック(A-PET)		再び卵パックなどの原料としています。			
卵パック	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	(単位:kg)
配布量	146,335	154,714	156,862	163,674	
回収量	78,005	83,375	82,557	96,813	
回収率	53.3%	53.9%	52.6%	59.1%	

商品とカタログのお届け用ポリ袋		「ハンガー」、「クリアファイル(文具)」、「建設資材」などの原料としています。			
内袋	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	(単位:kg)
配布量	322,296	322,079	321,371	331,261	
回収量	126,679	151,796	171,380	139,841	
回収率	39.3%	47.1%	53.3%	42.2%	

10 さまざまな暮らしに合わせたサービスの提案

聴こえの相談会や補聴器の紹介

認知症の要因の一つである聴力低下への対策として、聴こえの相談会、補聴器の紹介を進めています。相談会には1年間で25の方が参加されました。補聴器は新たに123の方に利用いただきました。



健康づくりに役立つサービスを提案

がんの可能性が手軽に分かるアミノインデックス®がリスクスクリーニングを展開し、2019年度は1,272人の方にご利用いただきました。郵送で検査できるピロリ菌検査キットは、915人の方に利用いただきました。

テーマパークチケットの取り扱いを拡大

チケット事業では、要望の多いレゴランド®・ジャパンの生協オリジナルパスポートの取り扱いを実現し、約1万名の方に来園いただきました。



9 職員の学習と働きやすい環境づくり



子ども参観日の取り組み

ワークライフバランス推進、男女共同参画、次世代育成などの観点から、夏休み期間に、子ども参観日の取り組みをコープあいちと合同で開催しました。2019年度は、小牧配送センターで宅配の仕事をするお母さんの姿を見学しました。また、宅配事業を支える小牧要冷蔵センターを見学し、午後からは、SDGsすごろくを使ってSDGsについて学習をしました。



子ども参観日に参加したお子様と記念撮影



仕事をするお母さんの姿の見学の様子



SDGsすごろくを楽しむ様子

職員の学習

組織全体での教育研修のひとつとして正規職員、パート、アルバイト職員を対象に、eラーニング(インターネット上に登録した教材を使った学習)を進めました。2019年度は、「倫理方針・相談窓口」、「BCP・災害対策」、「内部統制・個人情報保護」をテーマに理解を深めました。

11 運転とくらしの保障をとおして地域や職場に安全と安心・笑顔をお届け



(株)東海コープ安全運転センター

運転部

生協の事業を進める上で、自動車の運転は必要不可欠です。「安全」を最優先させ、継続的に実践していくことは、地域の方々の「安心」を広げていくことになります。生協職員が地域の中で運転において、社会的責任と義務を担い見本とならねばなりません。安全運転センターは、安全運転教育をとおして立派な生協人に育成することを教育の柱としています。教育として、新入職員安全運転研修、安全運転主任トレーナー研修、管理者研修などを実施しているほか、毎月「ドライバーのチエだめし」「事例研究」などの教材を提供しています。



新入職員安全運転実技訓練(愛知県犬山市にて)



第26回コープ交通安全フェスティバル(名古屋国際会議場にて)

保険部

2019年度は組合員の要望にお応えし、商品の改定と新しい商品の募集をしました。

●コープの介護保険の改定

加入年齢が拡大され、新規加入は0歳~満79歳の方が対象になりました。継続は89歳まで継続できるようになりました。また、告知に関する質問事項も変わり、加入しやすくなりました。

●コープの三大疾病保険の取り扱い開始

がん・急性心筋梗塞・脳卒中のリスクに一時金で備える保険です。12月より募集を開始し、1ヶ月で約270件の資料請求をいただきました。



東海コープ事業連合
サステナビリティ・レポート
TOKAI CO-OP Sustainability Report
2020

生活協同組合連合会
東海コープ事業連合

東海コープ事業連合の事業の概要

2020年3月20日現在

■事業の概要

名称	生活協同組合連合会 東海コープ事業連合
本部	愛知県名古屋市長東区猪高町 上社字井堀25-1
設立	1994年4月1日
区域	岐阜県・愛知県・三重県
総事業高	812億円(2019年度)
出資金	9.86億円(2019年度)
職員数	644人(パート含む2020年3月20日現在)
東海3生協の組合員数	945,548人(2020年3月20日現在)

■事業内容

商品事業	商品の仕入れ・調達、商品の開発・改善、 お申し出管理、品質管理業務・商品検査業務
宅配事業	宅配商品の商品案内書作成・企画、受注業務
店舗事業	店舗商品の仕入れ・調達、企画、店舗開発と出店計画
情報システム事業	宅配・店舗事業のシステム開発・運用
物流事業	宅配・店舗商品の仕分け事業、 会員生協配送センターまでの物流管理
生活サービス事業	旅行事業、提携事業、チケット取扱い業務

■子会社の概要

株式会社東海コープ安全運転センター	
所在地	名古屋市東区東桜2丁目9番1号 高岳セントラルビル8F
業務	損害保険代理事業、 生命保険募集に関する業務、 運転実技研修の実施、教材の企画制作、 運転教育に関わる会員生協等からの 受託業務

お問い合わせ：経営管理部 TEL 052-703-1769 FAX 052-703-1631

発行日：2020年6月17日 発行者：生活協同組合連合会 東海コープ事業連合



FSC® 認証マーク

FSC® 認証は独立した非営利の国際組織であるFSC® (森林管理協議会)が森林管理基準に照らして、環境保全の観点から適切に管理され、責任ある森林管理がされている森林を認証する制度です。この冊子は、FSC® 認証された森林から産出した木材製品である紙を使用して製本しています。



ベジタブルインクマーク

この冊子は、印刷インキ工業連合会が定めた大豆油、亜麻仁油、桐油、ヤシ油、パーム油等植物由来の油、及びそれらを主体とした食用用油等をリサイクルした再生油を使用した植物インキを使用し、印刷しています。